

プロジェクトチーム」という。)を立ち上げ、「自殺対策」と「十和田市のセーフコミュニティの世界保健機関(WHO)認証に向けた支援」の2点を重要課題として掲げた。

そこで、十和田市をモデルとするセーフコミュニティ活動における取り組みをとおして、保健所の機能・役割について考察したので報告する。

II. 十和田市の活動状況～WHO認証にむけて

1. H18年度セーフコミュニティとわだを実現させる会発足。
2. H18～19年度青森県子どもの外傷予防総合推進事業モデル地域指定。
3. H20年3月、認証に向けて、市長をトップとした推進協議会を設置し、その下部組織に検討委員会、プロジェクトチーム、さらに8領域の作業部会をおき、組織体制を整備。
4. 無作為抽出600世帯に対する外傷世帯調査による地域診断実施。
5. 8領域の作業部会(ワーキンググループ)によるアクションプランの素案作成。
6. アジアセーフコミュニティ認証センター・コーディネーター朴南秀氏の視察・講演会開催。

III. 保健所の取り組み状況

1. H20年度所内活動状況
 - 1) 所内プロジェクトチーム打合せ会議(月2回程度、随時)。
 - 2) 管内外因死統計地域診断。
 - 3) 上十三地域自殺総合対策ネットワーク会議開催。
2. 十和田市への支援
 - 1) 保健所長は十和田市セーフコミュニティ活動における中心的スーパーバイザーとして推進協議会委員や検討委員会委員、十和田市プロジェクトチーム顧問として参画。
 - 2) 領域別作業部会参画: 指導予防課1名・生活衛生課1名・健康増進課3名が5つの部会に参加しワーキングをサポート。
 - 3) 外傷世帯調査: 外傷及び安全意識・行動についての地域診断のための訪問調査。
 - 4) アジアセーフコミュニティ認証センター・コーディネーター朴南秀氏の十和田市視察・講演会への協力。
 - 5) 保健統計資料の情報提供(随時): 自殺死亡率、外因死亡率等々。

セーフコミュニティ活動における保健所の 取り組みについて ～WHO認証に向けた十和田市への支援より～

金田留美子 一戸恵久美 加賀谷久子
上村昭子 中渡秀代 反町吉秀

上北地域県民局地域健康福祉部保健総室(上十三保健所)

Key Words: ①セーフティプロモーション
②セーフコミュニティ
③プロジェクトチーム

I. はじめに

事故によるけがや自殺などは、運や偶然の結果ではなく、科学的データに基づく適切なプログラムによる改善で予防できる、という世界保健機関(WHO)の考え方に基づき、安全な地域社会づくりを進めていく取り組みを「セーフティプロモーション」と呼んでいる。

これまで地域保健に係る様々な対策は各セクション毎に実施されてきたが、当保健所では、平成20年度にセーフティプロモーション推進プロジェクトチーム(以下「プ

IV. 結果及び考察

H 20 年度上北地域県民局地域健康福祉部では運営基本方針を「住民が健康で安心して暮せる社会づくりのために、保健給室・福祉子ども給室の連携を強化し、保健・医療・福祉サービス総合的・一体的な提供を図る」とし、保健給室重点目標の一つに「健康づくり及び安全づくりの推進」を掲げ、その具体的事項の中に「十和田市をモデルとするセーフコミュニティ活動の推進」をあげている。

プロジェクトチームでは、随時支援内容や企画について検討を重ね、十和田市への技術支援及び情報提供支援を行った。

技術支援の訪問調査は、市調査員の分担以外の調査困難な地区を担当した。作業部会では課を越えた体制でサポートし、プロジェクトチーム打合せ会議で他部会の状況や各領域で重複する課題等情報の共有を図ることにより、ワーキングを効果的に進めることができた。また、男女別・年代別の自殺死亡率や外因死統計等の保健衛生統計の情報提供支援を実施してきた。

十和田市からは「WHO 認証申請書のプログラム案(アクションプラン)の検討として作業部会が編成されたが、広域的な視点を持つ保健所職員が加わったことでワーキングが充実し活発に進めることができた。自殺や事故などの外傷による死亡については、市としてのデータ収集には困難性があり、保健所の情報提供は課題分析に効果的だった。」との感想があった。

セーフコミュニティ・セーフティプロモーション活動は、疫学的アプローチによる総合的かつ継続的な予防安全、科学的根拠に基づく予防安全(被害の未然防止対策、事故防止対策、被害防止のための予防介入)を目指しているが、保健所における保健衛生統計学的分析によって科学的根拠が明らかになり、対策の検討に活かされている。また、当所の自殺総合対策によって、管内の職域を越えたネットワークづくりを推進し、被害の未然防止及び被害防止のための予防介入にも取り組んでいる。セーフコミュニティ活動を進めていく上で、地域保健の広域的・専門的・技術的拠点としての保健所の機能は有意義で、活動を展開する市町村への大きなサポートとなる。

今回、モデルとして十和田市への支援を実施しているが、他町においてもセーフコミュニティに対する関心が高まってきているため、十和田市での取り組みを活かし、上十三地域全体へと発展させていきたい。

V. 文献

1) 反町吉秀・奈須下淳: 日本における Safety promotion/Safe community 活動の展開, 小児内科 第 39 卷 第 7 号 別刷 (2007.7), 東京医学社

2) 反町吉秀・白川太郎: 子どもを守る(地域)環境づくりとしてのセーフティプロモーション, 保健の科学 第 47 卷 第 12 号 別刷 (2005.12)

3) 十和田市セーフコミュニティホームページ; <http://www.net.pref.aomori.jp/city/towada/machidukuri/safecommunity/top.htm>

日本セーフティプロモーション学会ホームページ; <http://www.safetyprom.com/>